

# 第12回江南市市民協働・市民活動推進協議会 会議要旨

日時：平成 22 年 11 月 8 日（月） 15 時～17 時

場所：市民・協働ステーション 大会議室

## 1 議題

### (1)平成 23 年度江南市地域まちづくり補助金に関わる委託事業について

#### ◇趣旨説明

○NPO 法人ボランティアネイバーズ（注）に、11 月 13 日（土）に補助金講座を、25 日（木）に個別の応募相談会を開催してもらうことになった。経緯については以下のとおり。

※昨年度の応募相談会のような、審査員が審査の前に応募の相談を受ける環境を解消するため。

※申請者に補助金の趣旨を理解して申請してもらうため。

⇒公金を使った補助金を利用する意味を理解してほしい。

※「公正性」「透明性」の確保のため、申請書や報告書などを公開するため。

⇒書類作成のポイントを理解し、他者に伝わる書類を提出してほしい。

（注）名古屋市東区の間接支援 NPO 法人で、モリコロ基金や県内様々な市町の補助金制度の運営に深く関わり、補助金、助成金制度に精通している団体。

#### ◇補助金に関する事業・制度の成果と課題について

○補助金の目的を理解せず、お金目当てで、お金ありきで応募してくる団体がある。お金獲得のためにひとまず事業を実施するが、その後も続くのか疑問に思う。

○申請書からはなぜこの補助金をもらって事業をするのか（地域にとってどのような影響があるのか）が伝わってこない。プレゼンテーションを通してやっと理解できる事業が多く、文章で表現するのが苦手な団体が多い。

○初めは目的に即した事業は少ないかもしれない。しかし、モリコロのように、制度が市内に浸透することで、申請者のプレゼン力は向上するのではないか。そうやって広まってきた時に、江南市が元気になるのではないか。（補助事業の周知に力を入れたい。）

○領収書の原本を提出しなければならないことに驚いた。

○2 年目の補助率が昨年度より上がった（60%から 80%へ）ことにより、継続しての利用を検討する方が増えると思う。

○事業の申請、審査のポイントは、事業実施の夢が描けるかである。その夢を文章で表現するのは難しいと思っていた。人の心に伝わる書類の書き方のポイントを教えてもらえるのはとてもありがたい。

○申請書は枠外に及んで書いてもよい事を何らかの形で伝えた方がよいのではないか。

○補助金は公金であり、事業実施に失敗は許されないといった面がある。目的も飛躍、発展する事業を応援するとしている。しかし反面、補助金を利用してまず実施してもらうことが第一であるといった面がある。本当に初めての団体は受け入れるのか受け入れな

いのか。オープンに対応するにしても、どのラインで区別するのかを明確にルール付けする必要があるのではないか。

- 飛躍、発展する事業を応援するスタンスでいながら、この補助金制度を活性化する方法を考えて事業の採択を決めていく必要がある。
- 赤い羽根共同募金の助成事業からの流れをつくるために、募集期間をもう少し後ろにずらすことはできないか。赤い羽根の審査会で周知しようと思っても、募集期間が残りわずかであると紹介しづらい。  
⇒平成 24 年度事業募集時に検討する。  
⇒今回は、市の講座で赤い羽根の周知をしよう。13 日に赤い羽根のパンフレットを資料として配布する。
- 「まちづくり」のネーミングが申請を難しくしていると感じる。知識があれば理解できるが、「まちづくり」というと都市計画のイメージが払拭できない。「まちづくり」では「将来的に地域に還元できる事業」の目的が明確に伝わらない。
- 文化的な事業も「まちづくり」に入ってくるとなると、範囲が広すぎて何が対象事業なのか線引きが難しいと思う。ポイントは「社会にある課題を解消する事業であるか」である。やりたい事を応援するのではなく、まちにどう還元するかを考えてもらう必要がある。
- 赤い羽根と両輪で高めあっていきたい。
- 市民・協働ステーションに人がいて、継続的に相談できる体制があれば、補助金の目的も伝えていけると思う。
- 過去に交付を受けた団体にも説明会に参加していただき、補助金の趣旨を理解して、事業を振り返っていただきたい。

#### ◇11 月 13 日(土)に開催する講座の進め方についての提案と意見交換

- 基本的には団体の構成員に支払われる「人件費」は対象経費ではない。曖昧に表現されていて伝わりづらいが、アルバイト代ではなく、労を労うための経費に使ってもらうための項目である。講座では強調して説明してほしい。  
⇒平成 24 年度事業募集時には、対象経費の表について次の項目を検討する。
  - ※「人件費」の表現が適切かどうか。(作業を伴い…)
  - ※「委託料」や「使用料」など、対象経費のメインになる部分を一番上に掲載する。

## 2 その他

- 先月地域に出向いて市民懇談会を開催したところ、「協働して活動の幅を広げたいと思うが、知り合う機会が少ない。」といった意見が出た。それを受けて、4 年ほど前に市民体育館で行った意見交換会のイメージで、来年度、NPO・ボランティアガイドに掲載のある約 130 団体が一同に集まる機会を設けたいと思っている。詳細については、協議会の皆さんに意見を伺いながら決めていきたい。  
⇒自由に話し合う場として継続して開催していけるとよいと思う。
- 来週、古南小の子ども達が情報センター見学に来る。ステーションも合わせて紹介する。